

学校の教育目標

・心の豊かな子ども ・よく考える子ども ・たくましい子ども

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を確実に身に付けさせると共に、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。 ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を育成する。
--

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「わかった」「がんばってよかった」「以前学習した事柄や方法が使える」と言える指導を行う。 ・個別指導やグループ指導といった学習形態の導入や理解の状況に応じた繰り返し指導などの学習活動を取り入れて指導内容の定着を図る。 ・算数科では東京都方式の習熟度別指導ガイドラインを活用し、習熟度別に少人数指導を行い、児童の実態に応じた指導を行う。 ・東京ベーシックドリルを活用し、つまずきに立ち戻ったり、個々に応じた発展問題を工夫したプリントを使ったりして、さらなる習熟を図る。 ・「家庭学習キャンペーン」を各学期一回実施し、家庭学習の習慣を身に付けさせ、個別の課題に取り組ませる。 ・「放課後月二さんすう塾」と「夏休み月二さんすう塾」を定期的実施し、東京ベーシックドリルの診断テストの全員合格まで一人一人のつまずきに対応する。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が多面的、多角的に考え、発表し合う場を計画的に設定し、それぞれの考えを深めさせる。 ・自分の考えや友達の考えを「書く」活動を様々な場面で取り入れ、よりよい考え方や表現方法を学ばせる。 ・発言・発表の仕方を指導するとともに、自分の考えを相手に伝える場面を取り入れることにより表現力を養う。 ・学び合いの時間を確保し、よりよいものになるよう互いに高め合えるようにする。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で粘り強く問題を解決する場や課題の設定の工夫をし、満足感や充実感が実感できる指導を行う。 ・わかる授業を行い、意欲的に取り組めるようにする。また、わからないところまで立ち戻る指導を充実させる。 ・グループ学習を取り入れ、自分の言葉で相手に伝えることを意識させる。 ・問題解決的な学習を取り入れ、主体的に学習する姿勢を養う。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題 ○結果分析から明らかになった成果 ▲結果分析から明らかになった課題			
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○全ての観点で全国平均を大きく上回り、読む能力については10.4ポイント上回っている。区平	○全体的にほぼ都の平均である。教科の内容の観点別では書くことについて都平均を3.3ポイント	○全体的にほぼ全国平均である。読む能力については全国平均を4.8ポイント上回る。

	<p>均もほぼ上回る。</p> <p>▲言語についての知識・理解・技能については区の平均を0.7ポイント下回っており、漢字を書くことと言葉に関する学習に課題が残る。</p>	<p>上回った。また取り出す力については13.8ポイント上回り、全体的に活用は都平均を大きく上回った。</p> <p>▲教科の内容については全体的に平均を下回っており、知識の定着が課題である。</p>	<p>▲全国学力・学習状況調査の結果から、知識が定着しているのに対し、それを活用することに課題がある。</p>
算 数	<p>○全ての観点で全国を4～9ポイント上回る、大変良好な状況である。</p> <p>▲全体の平均は上回るが目標値に達成しない児童も一部に見られる。</p>	<p>○全ての観点でほぼ都平均である。技能については5.3ポイント上回った。</p> <p>▲思考・判断・表現や活用する力を付けることが課題である。</p>	<p>○全ての観点で全国平均を上回り、関心・意欲・態度については5.2ポイント上回る良好な状況である。</p> <p>▲数量関係については区平均を8.3ポイントも下回り、百分率とグラフの問題に課題がある。</p>
社 会	<p>○区平均と同程度であり良好である。</p> <p>▲社会的事象についての知識・理解については全国平均を0.6ポイント下回り、先人の働きに対する理解が課題として残る。</p>	<p>○資料を読み取ったり、分析したりする力が定着している。</p> <p>▲全ての観点で都の平均を下回っており、社会的事象への関心・意欲・態度が8ポイントも低いことが課題である。</p>	<p>○全国平均より1.2ポイント上回っている。社会的事象への関心・意欲・態度は7.3ポイント高く、区平均も上回る。</p> <p>▲知識・理解についてわずかに区平均を下回り、特に「工業生産と貿易」が課題となる。</p>
理 科	<p>○区平均と同程度であり、良好な状況である。</p> <p>▲観察・実験の技能については全国平均を1.7ポイント下回り、問題内容としては「植物の育ち方」や「太陽と地面のようす」に課題がある。</p>	<p>○問題解決学習の流れを理解し、意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>▲全体的に都の平均を下回っている。活用については0.6ポイント上回ったが、教科の内容の定着が課題である。</p>	<p>○全国平均を1ポイント上回っている。</p> <p>▲全ての観点で全国平均・区平均を下回っていることは大きな課題である。</p> <p>▲問題内容としては「流れる水のはたらき」「魚と人のたんじょう」に課題がある。</p>
調査以外の教科についての成果(○)と課題(▲)	<p><音楽></p> <p>○全体的に音楽に対する関心・意欲が高い。歌唱は低学年では歌うことを楽しみ、中学年で美しい歌声を意識し、高学年では響き合い、調和の取れた合唱を目指して積極的に取り組んでいる。器楽の技能習得にも進んで取り組み、高学年ではそれをもとに自分たちの思いを表現するようなグループ活動で創意工夫を楽しみながら、必要な技能をさらに高められるような学習に取り組んでいる。</p> <p>▲器楽における技能面での個人差や集団での表現活動の中での個別支援の工夫が課題である。</p> <p><図画工作></p> <p>○図工に対する関心・意欲が高く、創作意欲も高い。自分がつくりたい物を発想し、</p>		

	<p>定着してきている創造的な技能で作品づくりに取り組んでいる。</p> <p>▲技能面での個人差が大きく、発想を広げられずあきらめてしまう児童がいる。自分の作品の良さに気づき、見通しをもって学習できるようにすることが課題である。</p> <p><家庭></p> <p>○意欲的に取り組んでいる。5年生は初めての調理や裁縫に興味をもって取り組んでいる。6年生は調理の手順を考えたり、調理や清掃の実習を友達と協力しながら楽しく取り組んだりしている。</p> <p>▲学校で学んだことを家庭生活でも実践について課題が見られる。</p> <p><体育></p> <p>○意欲的に取り組んでいる。体を動かすことが好きな子どもが多い。また友達と関わりながら運動することを楽しんでいる。</p> <p>▲めあてに向かって粘り強く運動に取り組むことについては個人差が大きく、運動する児童の二極化がみられる。運動することの日常化を目指し、なわとび一輪車以外にも場を設定する。</p>	
<p>調査以外の学年について 1学期の学習における成果(○)と課題(▲)</p>	<p>第1学年</p>	<p>(国語)</p> <p>○関心・意欲は高い。ほとんどの児童が平仮名を楽しく丁寧に読み書きしている。「～が～する。」「～が～した。」などの簡単な文章を書くことはできる。</p> <p>▲拗音や促音を理解しているが、表記になると間違える児童がいる。</p> <p>(算数)</p> <p>○数の仕組みや加法・減法に触れ、ブロックを操作したり、自分の考えを発表したりして、楽しみながら学習することができた。</p> <p>▲10の構成や10より大きい数の減法、繰り上がり、繰り下がりのない加法・減法を速く正確にできない児童がいる。</p>
	<p>第2学年</p>	<p>(国語)</p> <p>○漢字の学習に対する関心・意欲が特に高い。</p> <p>▲文を書くことに苦手意識があり、まとまりを理解してつながりのある文を書くことが稚拙な児童が多いことが課題である。</p> <p>(算数)</p> <p>○計算練習を好む児童が多く、順序よく整理しながら考えていく力も付いてきている。</p> <p>▲長さや水のかさの単位や計算方法の定着が不十分な児童がいる。</p>
	<p>第3学年</p>	<p>(国語)</p> <p>○関心・意欲は高く、積極的に発言する児童が増えてきている。</p> <p>▲作文では段落をしっかりと分けられない児童が多い。</p> <p>▲正しく書く力と言葉の意味把握が課題である。</p> <p>(算数)</p> <p>○少人数指導のため自分のペースで学習ができ、意欲的に課題を解決しようとしている。</p> <p>▲あまりのあるわり算や筆算の繰り下がりに課題がある児童がいる。</p>

昨年度の授業改善プランに基づく結果 (○) と主な課題 (▲)	
<p>○国語の「話す・聞く」については話形の提示により文の読解能力の向上や会話の中での語彙の増加が見られた。また日記や感想など「書く」機会を増やしたことで、苦手意識が減少し、長文が書けるようになったり、計画メモの利用で文章構成をできるようになってきた。</p> <p>○算数では学び合いの場を設けることで、自力で問題を解決していこうとする姿が多く見られようになってきた。</p> <p>▲基礎学力の差が大きいのので続けて個別指導で底上げしていく必要がある。</p> <p>○パソコンを利用したカラーでの大型映像資料提示によって興味を高め、内容を理解させることができた。</p>	

改善の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」態度や「書く」等、言葉を使いこなす力を高める。また、「読むこと」についても多くの文章に触れさせ、読み取る力を高める指導法の工夫をする。 ・学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した学習展開を工夫する。 ・思考力を向上させるために児童の興味を引くような教材の工夫をする。 ・基礎学力の個人差に対応するため、個別指導の時間の確保や方法について工夫する。
-------	---

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】

改善のための指導計画	<p>○児童の実態にあった指導計画を作成し、計画的な指導と繰り返し指導を行う。</p> <p>○国語科では年間通して「書く」「話す・聞く」の機会を増やし、表現力を高める指導の工夫を行う。また読書、読み聞かせや視写などの機会を増やし、文章を深く読み取る力や想像力を育てる指導の工夫をする。</p> <p>○算数科では、算数少人数担当との連携を深め、計画的に指導を進める。</p> <p>○学習形態を工夫したり、考える時間を確保したりすることで、思考力を高める。</p> <p>○指導時間内に、どの児童も進歩を実感できるよう指導計画の精選と指導方法の工夫を行う。</p>
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制
学習意欲を高める工夫	○「めあて」「まとめ」を明確にしなが板書・ノート・ワークシートを工夫する。
個に応じた指導	○算数では単元ごとにレディネステストを行い、コースガイドンスに基づいたクラス分けをすることで、理解度に合わせた確かな指導を行う。
国語「書くこと」	○ステップ学習や放課後などを活用し、学習の定着に不安のある児童には東京ベーシックドリル等を活用し、個別指導を行う。 ○季節や行事で経験したことを基に俳句をつくったり、報告する文章や記録する文章を書いたりする。 △書写の時間に書き方（特にひらがな）の手本を示し、児童が書いたものを評価し、改善点などを伝える。

<p>国語「話す・聞く」</p>	<p>△計画的に作文を書く機会を設けて、書くことに慣れ親しませる。</p> <p>△文章構成や話型などを掲示し、正しい書き方を身につけさせる。</p> <p>△自分の考えや筆者の考えや伝えたいことを簡潔にまとめる。</p> <p>○言語能力を高められるような場面を多く設定する。(話形の提示、短作文の日常化など)</p> <p>△要点をおさえたメモの取り方を再度指導し、繰り返し実践させて習得を目指す。</p> <p>△話す内容をまとめられるよう、話の組み立て方を示す。</p> <p>△定期的に読み聞かせの活動を取り入れ、集中して聞く良さを実感させる。</p>
<p>国語「読むこと」</p>	<p>○読書の機会を増やし、多くの文章に触れさせる。</p> <p>△文章の内容や作者の思いや考えを理解するために板書を使って視覚的に指導する。</p> <p>△単元の流れや、本時の流れなど、見通しをもって学習できるような板書を工夫する。</p> <p>△掲示物や ICT 機器を活用したり、動作化など体験的な活動を多く取り入れたりして、読みの向上につながるような授業を進める。</p>
<p>国語「言語について」</p>	<p>△題材文の学習前に視写を行い、深く読み取る力を育てる。</p> <p>△漢字学習については、家庭学習や朝の学習などで繰り返し練習することで定着を図る。</p> <p>△既習の漢字を必ず使わせる指導を行ったり、語彙力を増やし、正しい言葉の理解につながるよう日記指導を継続して行ったりする。</p>
<p>算数「関心・意欲・態度」</p>	<p>○習熟度別学習のコース分けで児童の実態を丁寧に見取り、コースに合った単元計画で授業を進めていく。</p> <p>△ゲームなども取り入れ、数に関する興味・関心が高まるような指導をする。</p> <p>△身近なものを題材とした問題や体験的な学習を通して、楽しさを感じられるようにする。</p>
<p>算数「数学的な考え方」</p>	<p>○問題解決の時間を重視し、「問題把握→自力で課題解決→グループや全体での学び合い」の授業で思考力を高めていく。</p> <p>△ブロック操作や簡単な図をかいたりする活動、グループで話し合ったりするなど全体で学び合う学習活動を多く取り入れる。</p>
<p>理科「関心・意欲・態度」</p>	<p>△教師が予備実験・観察等を密に行い、実験が安全で円滑に進むように計画する。</p> <p>△実験するめあてを意識させ、結果から何が分かったのか、毎時間まとめるようにする。</p>
<p>理科「技能」</p>	<p>△実験で実践するだけでなく、プリントで復習したり、実技実験を行ったりして技能の定着を図る。</p>
<p>理科「知識・理解」 「思考・表現」</p>	<p>△視覚的理解を促すための資料を効果的に活用し、用語の定着を図る。その上で現象の理由を、用語を適切に用いて話したり書いたり説明する活動を授業に多く取り入れる。</p>

<p>評価活動の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習後、学習の様子や理解について、児童に自己評価や相互評価する時間を設定することにより、学習意欲を高める。 ○ノートやワークシート、ポートフォリオ等、多面的に児童の学習状況を把握する。 ○座席表に児童の発表や反応、つぶやき等を記録し、評価と支援に生かす。 △あらかじめ児童に評価のポイントを知らせることで課題に対する意識を高める。 △国語で「書くこと」については、個々の文章量やいくつかの観点で書けていたか記録を取り、指導・評価につなげる。
<p>家庭や地域との連携の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問や個人面談等で児童の学習状況や努力の様子を伝え、保護者と共通理解する。 ○必要に応じて家庭と連絡を取り合い、個別指導や問題解決にあたる。 ○学校だより、学年だより、学級通信等で学校での取り組みや学習内容、持ち物などに対してきめ細かに知らせる。 ○各学期に一週間程度「家庭学習キャンペーン」を実施し、家庭学習の習慣化を図る。 ○家庭で音読を聞いてもらったり、ドリル等の進捗状況を伝えたりし、励ましを奨励する。また、保護者が児童の習熟度を把握することに役立てる。
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教員相互で授業公開し、授業評価を行って分析する。 ○保護者、学校評議委員、評価委員の評価等、外部評価を実施する。 ○学習力サポートテストや都学力向上調査等の分析を行う。 △単元後に評価テストを行う。

<p>【学力向上を支えるその他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週火、木曜日の朝学習時に東京ベーシックドリルや本校作成のプリントを利用して、漢字や計算に取り組みせることで基礎基本の定着を図る。また、校長・副校長・専科教員が補助に入り、つまずきのある児童を支援する。 ○読書月間を設け、学校と家庭で読書に親しむことで多くの文章に触れ、児童の世界観を広げる。 ○「放課後月二さんすう塾」と「夏休み月二さんすう塾」を実施し、東京ベーシックドリルの診断テストの全員合格まで一人一人のつまずきに対応する。 ○OJT研修で読み聞かせの実技研修を行い、読み聞かせの技法や本の選び方などを学び、子ども達との心のコミュニケーションを一層深め、豊かな想像力や聞き取る力を育てる。
